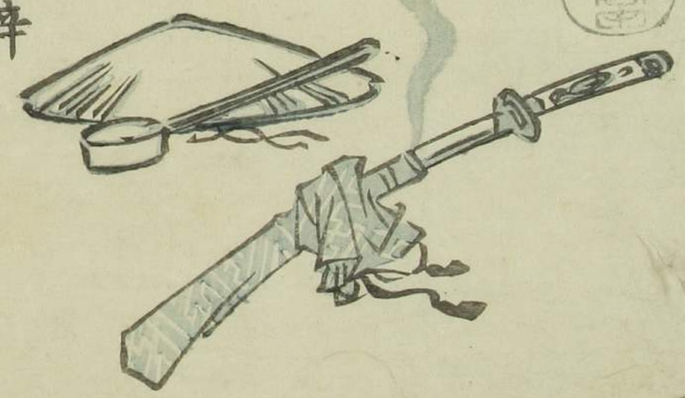
樂亭西馬作
前編
南傳馬一
蔦吉板
へ13
2378
268

特
2378
267

鷄聲粟鳴子



樂亭西馬作
一猛齋芳兎画

上の巻

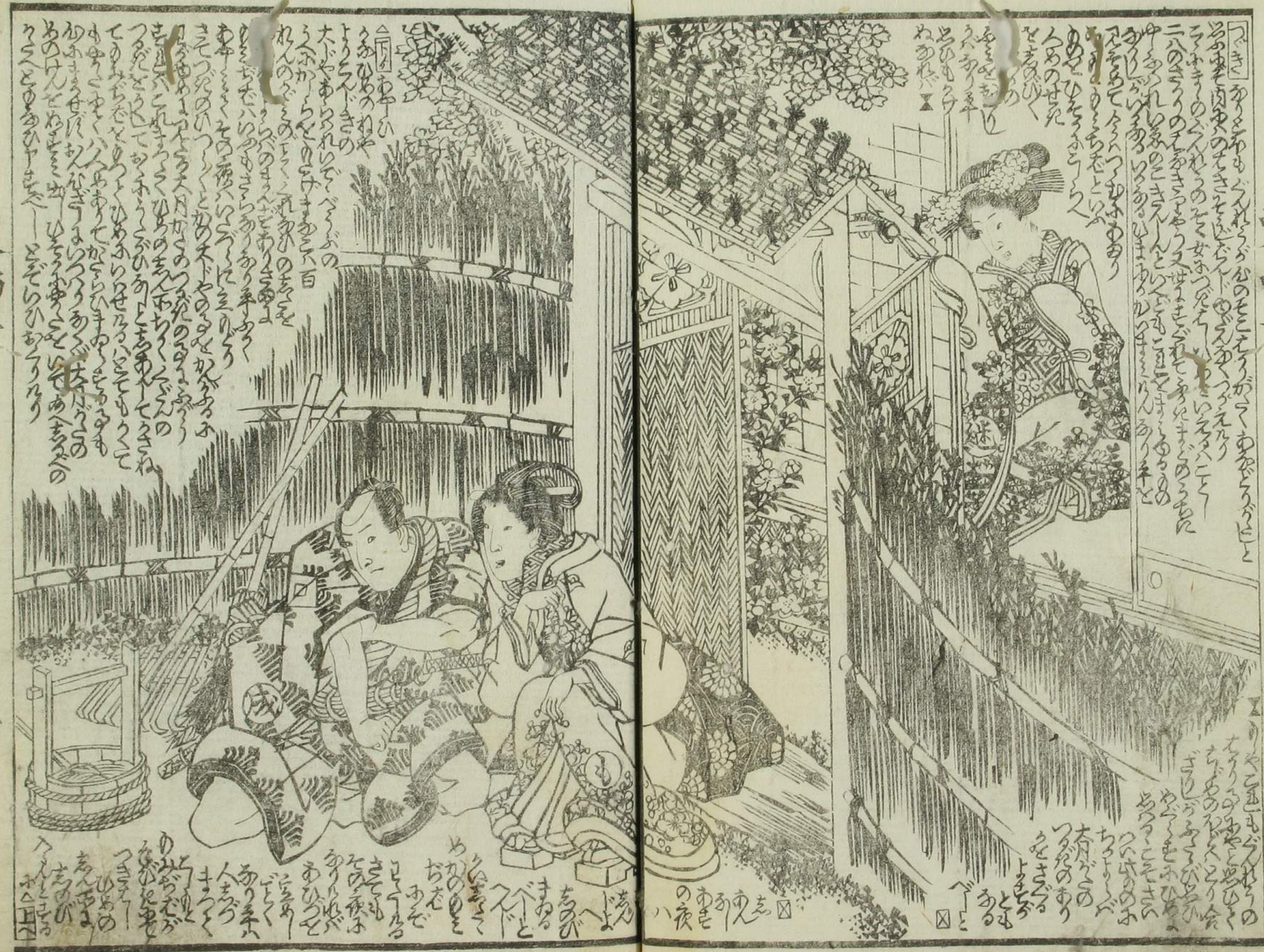
紅英堂壽梓

夫物の上達せずと不熟なるといふべ狂言奇語ハ言ふ及ビ一夕の講談一胃乃音曲まで児童も知る著文も實情備り只前視見る心ちせり亦有仮ハ説ことも嘘談も聞えく更に信の薄きあり況著述の稗史ハ其名人と下手雲泥形ハ僕如き作者ハ真似て故人の冊子抄焼直して聊増補差略をもぶとといふ事もあるべきハ品さめぢやと手を組バ傍ハ友人なりて曰はれもう解せぬ戈とて物作らぬも莫もう箱金能優の煩ひハ中役者代りを勤ハ衣装箱ハらふと及バ言語文句にかゝハ明けもで。さゝハ看官面白とせばそ第一人の秤軽く第二ハ上達と拙業にとるべし。言はずくげるとと天窓をかきくれる掛ハ折ゝ合長屋の二階ハ少女浚ハ浮瑠璃ハ古ひ趣向とみくまの岸打あるこの安請合夜稼に目さえあれ染種ハふくと訛ゝ先當李ハ珍ずき一巻尾物とこの御註文やらぬ道さぬ書房れ手配ぶらこうやう捐應の賞高いゝバ板元ハ手に栗の鳴子といふ外題よ當ると祈るふちあん。嘉永四歳辛亥春新板

樂亭西馬誌

偽形関帝
実ハ里見老臣十九島關之進
丁稚蝶吉実ハ里見弘若丸
真間の領郡秋能
女順禮小楳
実ハ従郎兵衛妻阿弓
舞鶴屋新艘
紅梅実ハ里見息女初香姫
成遠
実里見の兵衛
良野の風
粟
従良
兵衛
俠
梅
鉾
敵
仕

つゞき かまくらにてうち
おかしねひそろふて兄ゟ
ところ互ぃうりさればとて
主うんのちゝよかけて
ひそかにあひゐるめいけん
とて兄ゟコよふてそら
おそらくかわかく一日も
おあるまざさんやいそぎ
してぐんれうの中へ
入こミての中まをと
うかゞひかく六月
あたりてかめぬに
おにげんれうを
うつさへまてまの
ゆうそとねらうと
其く太ぎの木さ
あけせんのそとが
ひとうよ島ひ定めそれ
より木のゆちゆうこに
ちうよりうの中うさをと
うらひーたあると見ぐんれう
いあさてさのくわんぜさんへ
まうづるとてきやうにて
ありをもつらくあーへの
うぶかとねとあや三つぎの日
中ざく人よびいれてあんぢ
此ごろ来り中きのわろう
うんぢふおてんゆのうど
まさハわらハヤせとあるに



御免痴積湯 せんきつこうよう

御常藥所 信州上田東山堂製

一袋 代四十錢

中橋南傳馬町二丁目 清兵衛や吉藏

一色 古四文

一色 三十六文

日為化粧 曙の富士 三十六文

貢禮小橋大鯨波之節

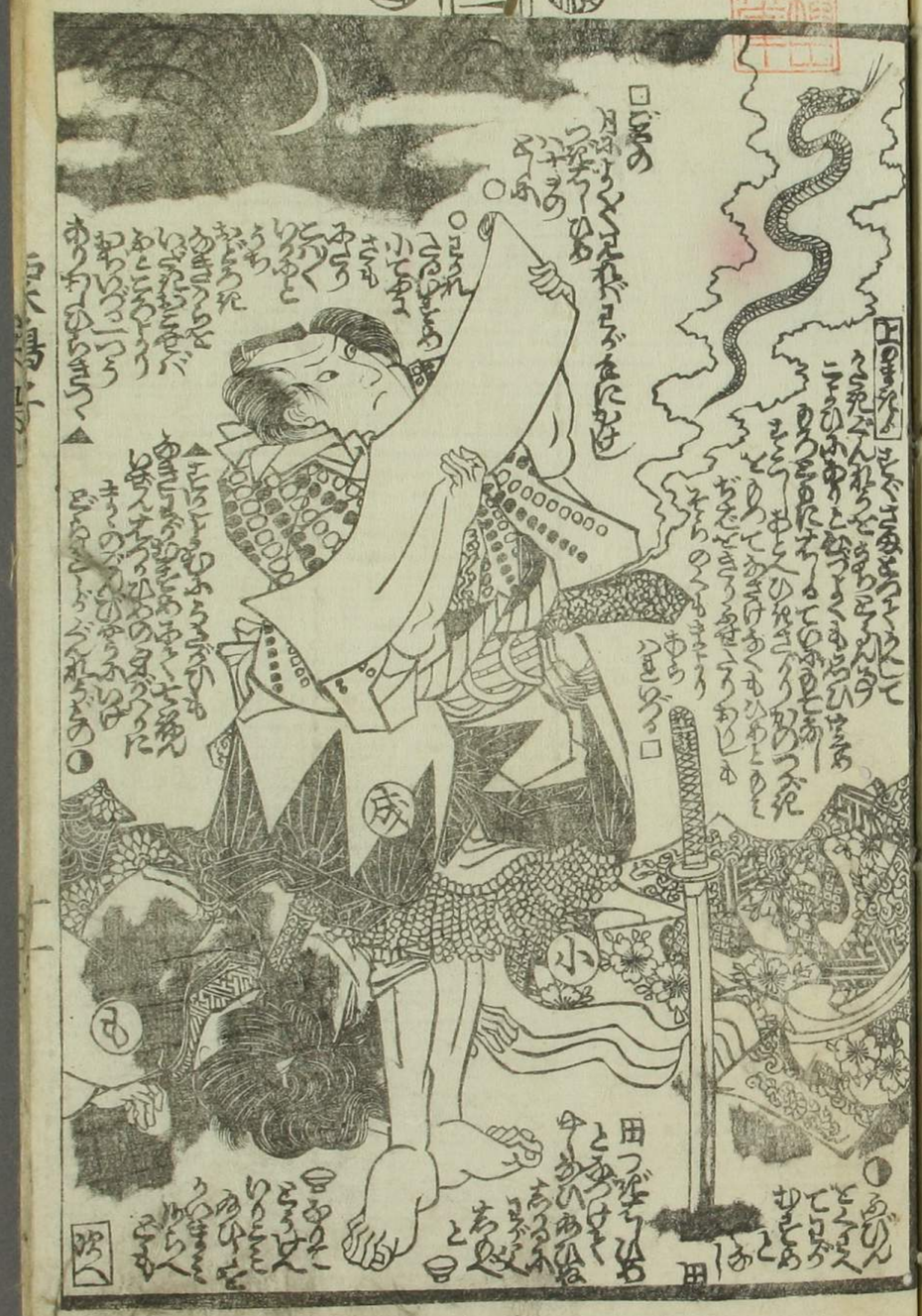
鶏聲栗鳴子

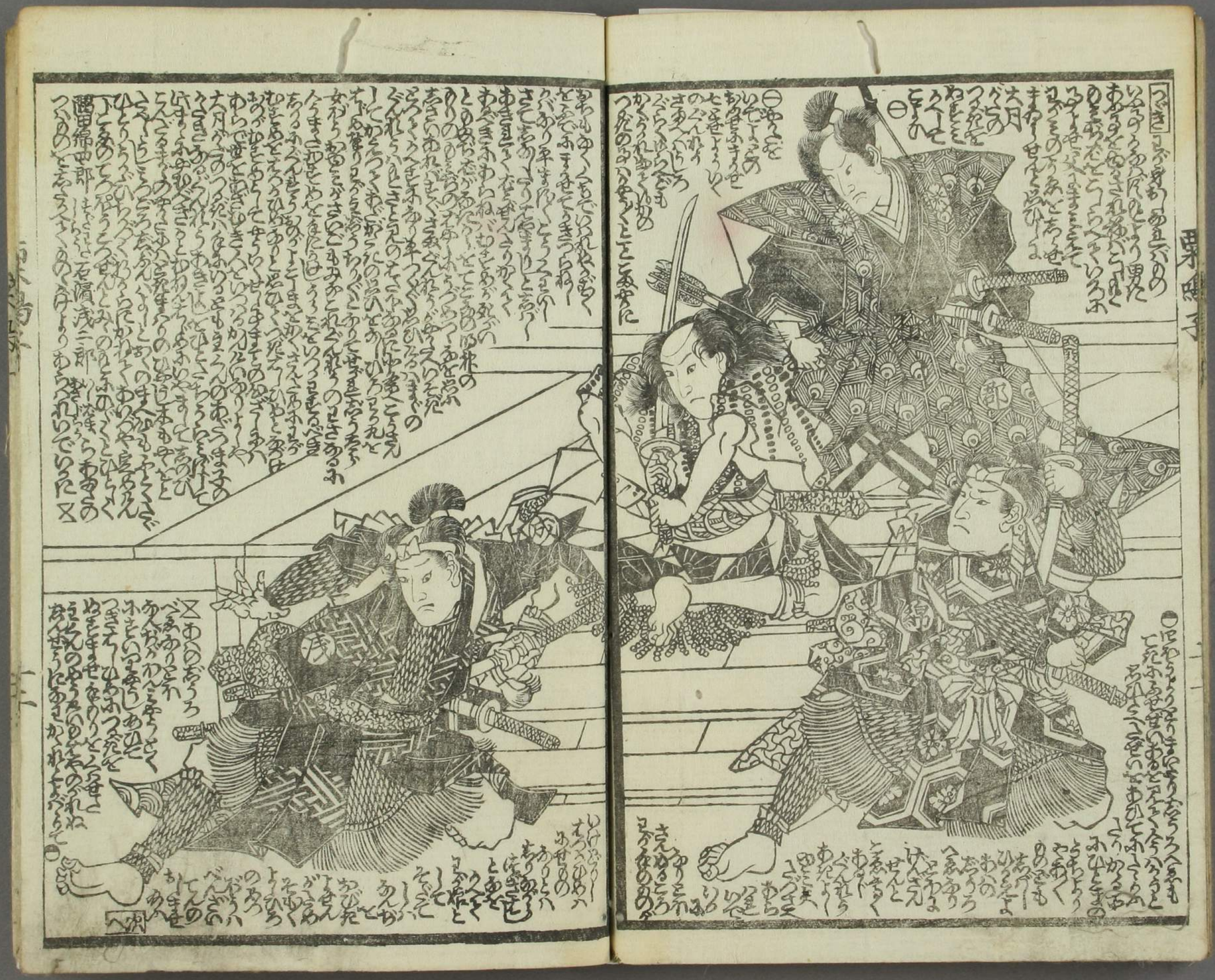
猛齋芳虎画

後編

狂題 豊国画

茅場
野
乃野
ち
下地巻
西馬作
芳虎画
芳盛彩版





つぎ
ひろまろ
みたちつわと
蝶吉郎

蝶

つき
蝶
段

つぎきさくはどうく
まあ〜せんとて
その夜ひそ
ネコぶうくへ
いぎあひく
ふく〜ちの〜
せもきこえ
ないふりして
まりさろ
ろんとうぶ
ゲネくとこのその
まひつるやとう
大ぜのまりてこう
ぶいとうさをと
せちふふあたとう
べ系まあんー
あぶざてくハ
ろぶーとらひく
さらたかさぞ
いふもちあさの
あてかの女を
かくまへふ
きうあひ
されどもいくえうくまいあせ
ちあくとこさして男がてんのぞこの
どがりネのうちとうらとべ生べ今
三三日まちこれとうふくうこのあども
らてうんせぞまうらバネのうちへ今三百あこぞう
うけどうくーきあくいとうぶとつ三ぢんとぞりま

(二)さふ〜ふ〜ふ〜イヤ〜
ちりうとうふ〜ぞ
ろうまふあ〜ぶぞとる
ひるゆぶね
あるドグ
づきん
(三)

(四)ぢうまれぶ
て三百あ
ふうく
ちくつ弟れ
それぶちよ
ふうとふ
ふまちく
いふ〜〜く去
さいあてき
ものまで
も(五)

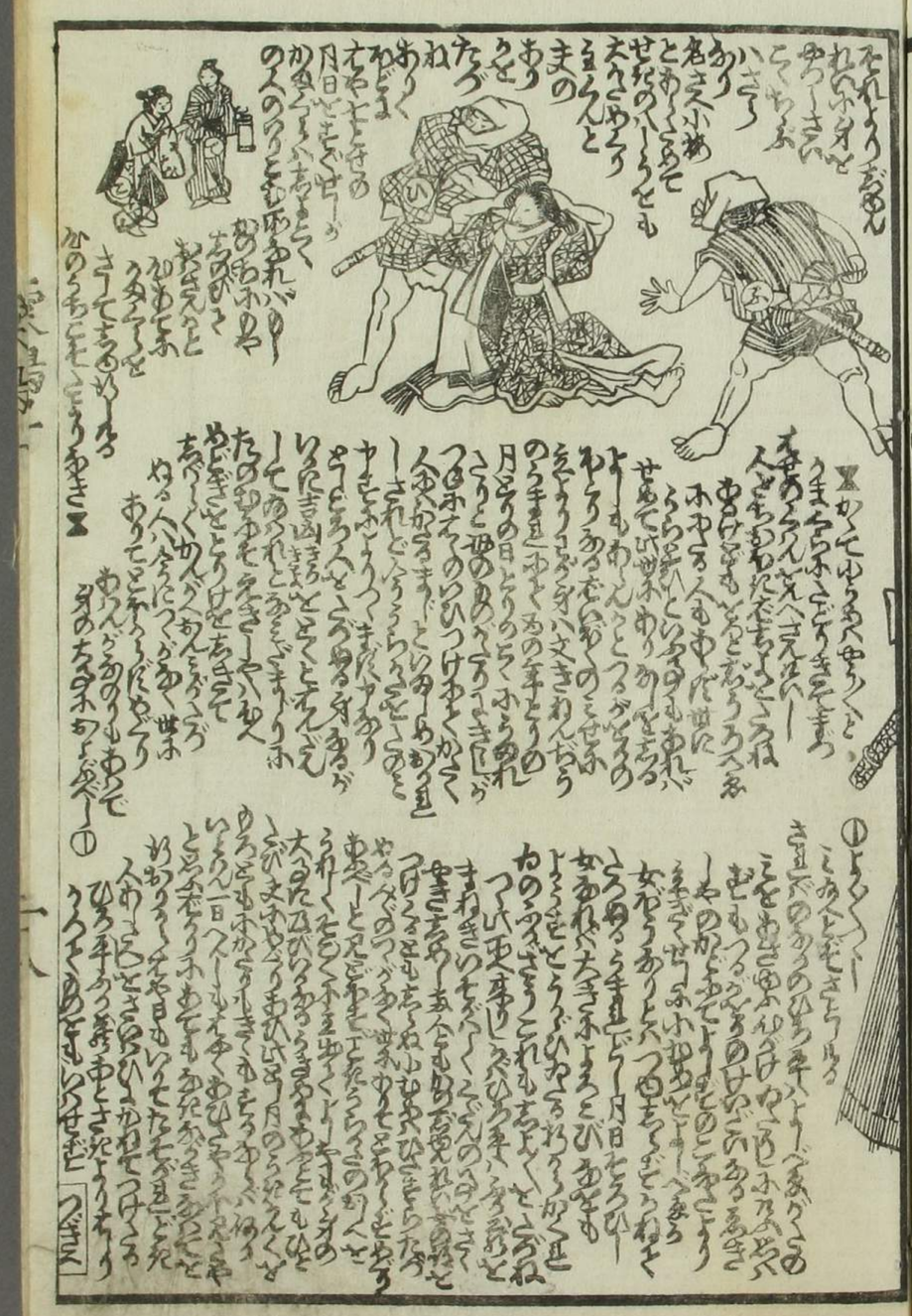
(六)ねつれんぶ
と三百あ
ふうくちん
(七)

まうくそこあれ乃ネふよりべ系きこ
ぶとりわいぶ
まてとのこいふりてまうくとひけぬきうさ
わさ三ハ
くうこのの
いふくいうりてさえいかくあんこ
こうぶいとうんとこあうときえさ
とさてゆるふ
ぶもさぶんよりまうふりてふ
たちぎくせ
ふもあうあこうぶこのさふ〜ひつと
内ふちりうつきこ
かこぶこうこのめと
ひたこうくこさうこうぶけのくまバ
とれとこだりうえひとうまりやりつくとよもも
つけもふらふふうてのどりうくもきんと
ちやこまうくくあびぐきとさふハ二百あ
こうぶいとふんふ子のーろくけこうぶ
ひのふんあうまこ
ふもきくふきりつけらまふふんこちち
くうこのめかれ
三つこの金ーのこたこれうけこまハ四も
又もいらぬうけとうハううぶうんこまぶ
さうかう出ろうかのハふふくんきうめ
ふハのかたちちふいさわふくとうさきちう
こふふおつまそこうりんうあこたようぶ
よりいぎえふをとうのさようみのうもふさ
そこふあこさふいふ
のふぎこまくひのふ
うちうふきちこいのわぶ
こまふちよりうのひとあれハ三百あハ
ひのりあてきこぶけふくやうまとふふ
よりべふくぶとかこむひふんときまての
ひちよふうこうハオまもくふひこふ
ウトさこまおとと見ふもぶ(一)

(八)あぢか
あのぎき
ふくまも
うくませ
ふのぶ

つき
紅
都

墨色周易



虎
梅
深

従
蝶
梅
江
廣
深

樂亭西馬作

猛齋芳虎画

嘉永四辛亥春新板目錄

大論日曙草紙 六編 京山作 十七編 國輝画

新鞦田舎物語 四五 一九作 六七 國輝画

一名 犬の艸紙 十六 十七 十八 豊国画 大傳 仙果錄

古今草紙合 五六 七八 塩屋文正 仙果作 國輝画

御贄美少年始 四五 一九錄 六七 國輝画

鷄聲栗鳴子 二冊 西馬作 芳虎画

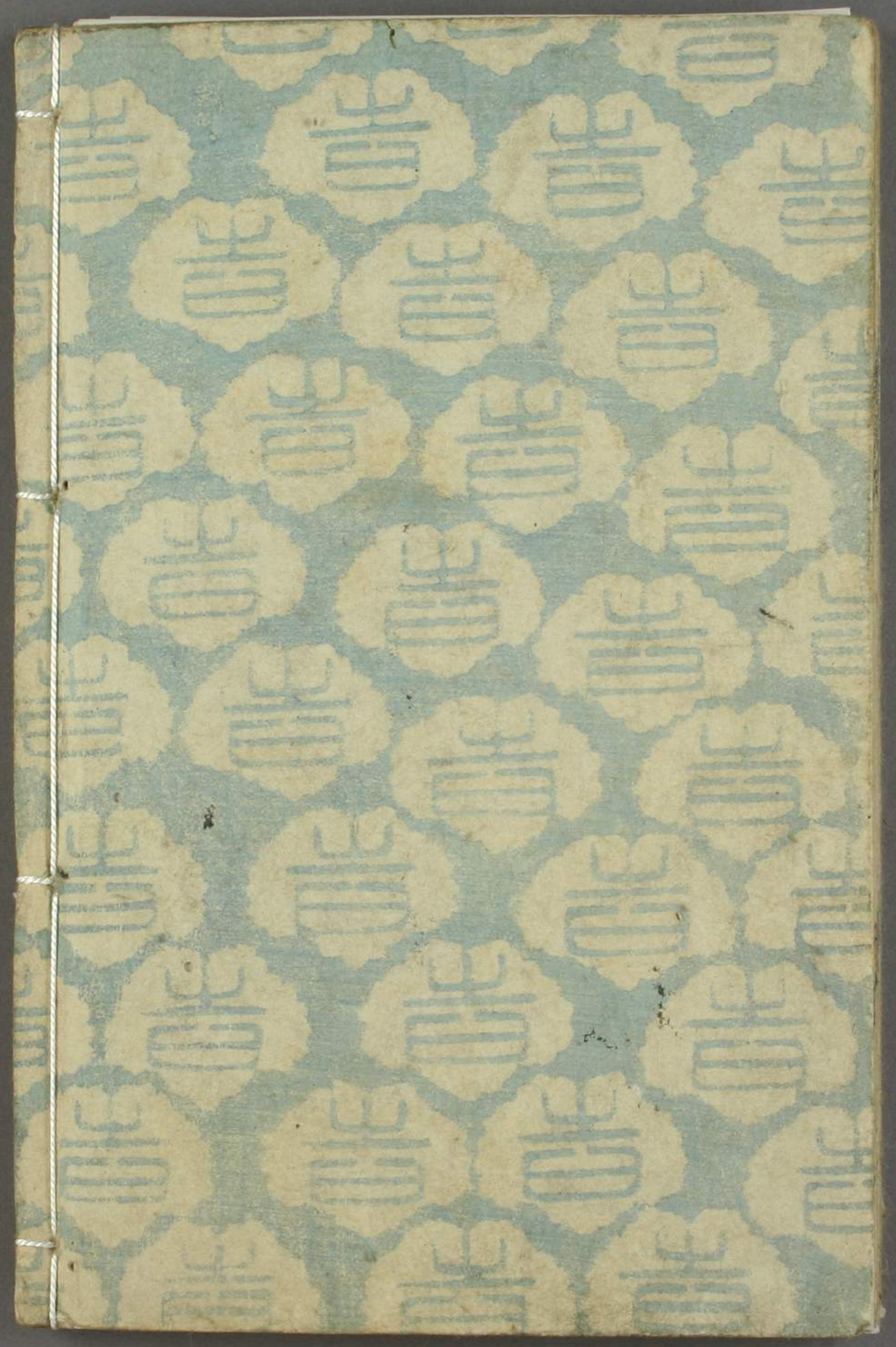
俠客傳小摸略說 四五 西馬錄 六七 国輝画

冨士額天人於七 二冊 仙果作 芳虎画

鳴巡浪間朝日奈 初二 穂貝譯 三四 國輝画

春柳錦花皿 初二 一九錄 三四 國輝画

府郷御江戸繪圖 大奉書 六枚つゞき

各本國郡里地全圖 日刊 六枚つゞき

地本錦繪 東都南傳馬町二丁目 板元 鶴屋吉藏